

市内で活躍する  
さまざまな団体  
をご紹介します

# 市民のチカラ

## 卒業生は約2000人！ 農作物を育てる楽しさを市民に伝える講座 NPO法人むさしの農業ふれあい村



NPO法人むさしの農業ふれあい村代表の齋藤瑞枝さん

市立農業ふれあい公園と吉祥寺東町農業公園で農業体験事業の実施・運営を請け負う「むさしの農業ふれあい村」。約20年もの間、市民が土に触れ、農作物を育てる機会を通して、身近な農と食と環境について意識啓発する場を提供してきました。日ごろ食べている野菜約20種類を10カ月間栽培する「農業体験教室」をはじめ、小学生を対象にした野菜の栽培体験、未就学児の親子での収穫体験などを企画・実施しています。

代表理事の齋藤瑞枝さんは「参加者の方々には必ず、楽しかったと思えるような体験を味わってもらえるようにしたいと考えています。例えば、大変な土づくりや植え付けの後、すぐ収穫できる野菜の種を先にまいておく、といったように、小さな成功体験を味わいながら作業できるようにカリキュラムを作っています。また収穫野菜のおいしい食べ方や保存方法について学んだりする機会も設けています」と運営にさまざまな工夫を凝らしています。

今、力を入れているのは土づくり。齋藤さんは「微生物いっぱいいる弱酸性のフカフカの土になれば、根を伸ばしやすくなります。すると土からの栄養分や水分をいっぱい吸収して、元気でおいしい作物ができるんですよ」と目を輝かせます。

この20年近くの間、講座で学び、卒業した人は約2000人にもなります。「卒業生たちが時々足を運んでくれて、公園がまちの人たちが集まるステーションのようになっていっているのはいいと感じています。また市民農園に行くと、必ずといっていいほど卒業生がいる。私たちの活動に参加したことをきっかけに、土に親しみ続けてくれていることをうれしく思います」と齋藤さん。

現在は、卒業した人たちの中から齋藤さんの後継者を探すこともミッションの一つになっているのだそう。「私も70歳を超えました。そろそろ次の世代にバトンを渡さないと」と話します。齋藤さんのような情熱と愛情を持った、次なるリーダーの出現が期待されています。

### NPO法人むさしの農業ふれあい村

土に親しみ、作物をつくる「耕作する」、農業文化を学び、農・食に関する意欲啓発に寄与する「情報発信」、武蔵野の農風景を守り育てる「農風景を守る」の3つを活動の指針として、市立農業ふれあい公園などで農業体験事業を実施している。参加者からアンケートを取りながら、その時々ニーズに合う講座の提供を心掛けており、今後、ハーブ畑の造成やブルーベリーの収穫なども企画。



季節ごとにさまざまな種類の野菜を育てている畑。次は何ができるか楽しみです



野菜収穫体験や共同栽培体験教室など、活動記録のパネルが展示されています